

II. 教育

2. 教育委員会

委員長 岩 瀬 弘 敬

1. 卒後教育セミナーについて（資料1）

- 1) 第85回は「術前合併症の管理と術式の工夫」のテーマで、昨春の第114回定期学術集會に並行して、上本伸二前会頭のお世話で国立京都国際會館（京都市）にて開催した（参加者：1,539名）。
- 2) 第86回は「若手に教える内視鏡手術のpitfall—トラブルシューティングとその対応—」のテーマで、昨秋の第76回日本臨床外科学會總會の竹之下誠一前會長にお世話いただき郡山市民文化センター（郡山市）にて開催した（参加者：239名）。
- 3) 平成27年度の実施計画としては、第87回を「病棟主治医のための治療戦略—術後合併症と対策—」のテーマで、4月18日に資料1の如く、柳野正人会頭のお世話で開催する。
- 4) 第88回は「外科標準術式—若手外科医のために—」のテーマで、今秋の第77回日本臨床外科学會總會の山下裕一會長にお世話いただき開催する予定である。

（資料1）

第87回卒後教育セミナー（平成27年度春季）

日 時：平成27年4月18日（土）13：40～16：00

（第115回日本外科学會定期学術集會3日目）

場 所：名古屋国際會議場 1号館 2F センチュリーホール（第1会場）

世話人：柳野 正人（第115回日本外科学會定期学術集會会頭、名古屋大学腫瘍外科）

企 画：安藤 久實（日本外科学會教育委員、愛知県心身障害者コロニー）

小寺 泰弘（日本外科学會教育委員、名古屋大学消化器外科）

テーマ：病棟主治医のための治療戦略—術後合併症と対策—

1. 小児に対する術後の輸液管理と栄養管理

司会：九州大学小児外科 田口 智章

講師：聖マリア病院小児外科 鶴 知光

2. 高齢者に対する術後の輸液管理と栄養管理

司会：熊本大学消化器外科 馬場 秀夫

講師：岩手県立中央病院消化器外科 宮田 剛

3. 術後創感染と対策

司会：和歌山県立医科大学第二外科 山上 裕機

講師：倉敷中央病院救命救急センター 福岡 敏雄

4. 術後呼吸器合併症対策—気道内分泌物と人工呼吸器の管理—

司会：東京医科大学呼吸器・甲状腺外科学分野 池田 徳彦

講師：名古屋大学救急集中治療医学 松田 直之

5. 術後呼吸器合併症と対策—心機能低下の把握、循環血漿量・水分出納—

司会：札幌医科大学心臓血管外科 樋上 哲哉

講師：岡山大学 森松 博史

6. 消化管術後合併症と対策—腸閉塞, 縫合不全—

司会：京都大学消化管外科 坂井 義治
講師：九州大学臨床・腫瘍外科 永井 英司

7. 肝胆膵術後合併症と対策—膵液瘻, 胆汁瘻—

司会：山形大学消化器・乳腺甲状腺・一般外科 木村 理
講師：北海道大学消化器外科Ⅱ 平野 聡

卒後教育セミナーは、本学会外科専門医制度規則施行規定により指導医の選定申請（春季は定期学術集會に参加しなかった場合のみ）及び更新申請、外科専門医の更新申請、認定登録医登録及び更新（10単位）の際の研究実績に加算することができる旨、周知方お願いしたい。

2. 映像による私の手術手技—ビデオライブラリーについて（資料2・3）

平成20年度より「標準手術シリーズ」と「学術集會のビデオ演題から10演題程度を選定する最新手術シリーズ」に分けることとし、平成27年度の標準手術シリーズは従来通り5名を選定（資料2）、最新手術シリーズは第114回定期学術集會のビデオ演題から10名を選定した（資料3）。制作補助費は標準手術シリーズが一人20万円、最新手術シリーズは再編集や音声入れなども考慮して一人10万円の補助としている。

昨年度は、全作品（256本、うち特別ビデオセッション2010・2012：8本）のDVDを1本5,000円（うち特別ビデオセッション2010：1本10,000円、2012：1本7,000円）で頒布し、230本（うち特別ビデオセッション2010：10本、2012：9本）の申込みがあった。

（資料2）

映像による私の手術手技
標準手術シリーズ

1. 胆道閉鎖症に対する葛西手術
東北大学小児外科 仁尾 正記
2. 左右肺動脈連続性確保のために肺動脈形成術を併施する体一肺動脈短絡術
三重大学胸部心臓血管外科 新保 秀人
3. 肺癌に対する標準手術
埼玉医科大学国際医療センター呼吸器外科 金子 公一
4. 3次元高解像度胸腔鏡下食道癌縦隔リンパ節郭清術
慶應義塾大学外科 北川 雄光
5. 腹腔鏡下低位前方切除術：平易な骨盤外科解剖の理解と基本操作
京都大学消化管外科 坂井 義治

（資料3）

最新手技シリーズ

1. 腫瘍栓合併肝静脈根部大型肝癌に対する外科治療
神戸大学肝胆膵外科 福本 巧
2. 腹腔鏡下幽門側胃切除後の再建法—リニアステイプラーを用いた体腔内吻合—
大阪赤十字病院外科 金谷誠一郎
3. 直腸癌に対する安全で局所再発率の低い腹腔鏡下低位前方切除を目指して

- 京都大学消化管外科 長谷川 傑
4. 肝門部領域胆管癌に対する肝切除 + 肝動脈切除
- 名古屋大学腫瘍外科 江畑 智希
5. TEVAR 後の open revision 手術
- 浜松医科大学第 1 外科 椎谷 紀彦
6. 呼吸器外科におけるロボット手術の短期成績と上手に行うための工夫
- 鳥取大学胸部外科 中村 廣繁
7. 当科における腹腔鏡下脾頭十二指腸切除術の現状と今後の展望—導入後の 5 年間で振り返って—
- 長崎大学移植・消化器外科 黒木 保
8. 進行結腸癌に対する手術の郭清範囲と腹腔鏡下手術：術前診断に応じた適正な Complete Mesoscopic Excision (CME)
- 大阪大学消化器外科 竹政伊知朗
9. 鈍的外傷に対する外傷チーム診療と初回手術
- 国立病院機構災害医療センター救命救急センター 岡田 一郎
10. 僧帽弁閉鎖不全—複雑病変に対する基本的手技の応用—
- 東京慈恵会医科大学心臓外科 橋本 和弘

3. 生涯教育セミナーについて

- 1) 平成 26 年度は「若手に伝えるヘモ・ヘルニア手術」のテーマで開催した。全国 7 地区で合計 1,125 名が受講され順調に実施された。
- 2) 平成 27 年度のテーマは「甲状腺、上皮小体、副腎の外科」で開催される。

4. 病院間医師交流による若手外科医師の教育プロジェクトについて

若手外科医師の手術を含めた外科診療能力の向上のためには、現在指導を受けている施設での修練だけに満足することなく、複数の施設での外科修練を受けることが、広い視野で外科学を学ぶこと、最前線の救急外科医療を学ぶこと、専門性の高い高度医療を学ぶことなど若手外科医師の教育に大きく貢献出来ると考えられる。

本プロジェクトは外科専門医を取得した若手医師が、参加を了承された本会指定・関連施設（約 444 施設）の教育コースを選び申込みを行っていただくようになっている。

実際に 3～6 カ月程度の修練をした場合には、交通費や宿泊費の一部を本会が負担するが、参加施設の一覧や詳細はホームページをご覧ください。

昨年は、3 名の申請があり、現在 2 名が修練中である。

修練完了者は、会員へ広く周知するために本会邦文誌へ「印象記」を掲載することとなった。また、申請者数を増やすため、従来 3 カ月以上であった修練期間を本プロジェクトに参加している修練施設および関連施設にアンケートを実施し、「1 カ月以上・2 カ月以上・3 カ月以上（現状通り）」と修練期間を短縮している。

5. 外科専門医修練カリキュラムの到達目標について

専門医を目指す若い会員が外科専門医修練カリキュラムにある腫瘍学や栄養・代謝学などの「到達目標」を理解出来るように、各学会のセミナーを低料金で参加できるような検討をしたが、まずは本会卒後教育セミナーのテーマの幅を広げ対応していくこととする。

6. ATOM コース (Advanced Trauma Operative Management) について

本会が受講者募集案内に協力している ATOM コースは、「九州大学病院コース」「大阪市立大学コース」「自治医科大学コース」「東北大学コース」の4つのコースを順調に開催しており、平成26年度の応募は21名で、うち13名が受講し、今後も継続して受講者募集案内に協力していくこととする。

3. 専門医制度委員会

委員長 北川 雄光

1. 新しい外科専門医制度については、別添資料をご覧ください。
2. 平成28(2016)年度から、「外科専門医修練カリキュラム」の到達目標3における各領域の手術手技の最低症例数のうち、「外傷(多発外傷を含む)」の10例を5例に引き下げる方針とした。
3. NCDの術式データが変更されたので、従来どおり本会の術式データとの相互紐付の修正作業を行った。
4. 定款委員会から上程された外科専門医制度規則および各種施行規定の変更を議決した。
5. その他、前例に倣って各種の間合せに対応した。

1) 外科関連専門医制度委員会

委員長 兼松 隆之

平成26年6月24日に第54回、平成27年2月4日に第55回総会を開催した。

1. 委員長に本会の兼松名誉会員が再任された(任期2年)。
2. 一般社団法人日本専門医機構の発足を受け、その活動内容を確認した上で、新専門医制度における更新基準(案)や、「外科専門医研修プログラム整備基準(案)」などについて意見交換を行った。

2) 社団法人日本専門医制評価・認定機構/一般社団法人日本専門医機構

代表委員 國土 典宏

1. 社団法人日本専門医制評価・認定機構

平成26年5月7日付で「一般社団法人日本専門医機構」(以下、新機構)が設立されたことに伴い、平成26年5月8日に「社団法人日本専門医制評価・認定機構 社員総会」が開催され、解散が決議された。なお、残余財産(2,644万3,000円)は新機構に寄付された。

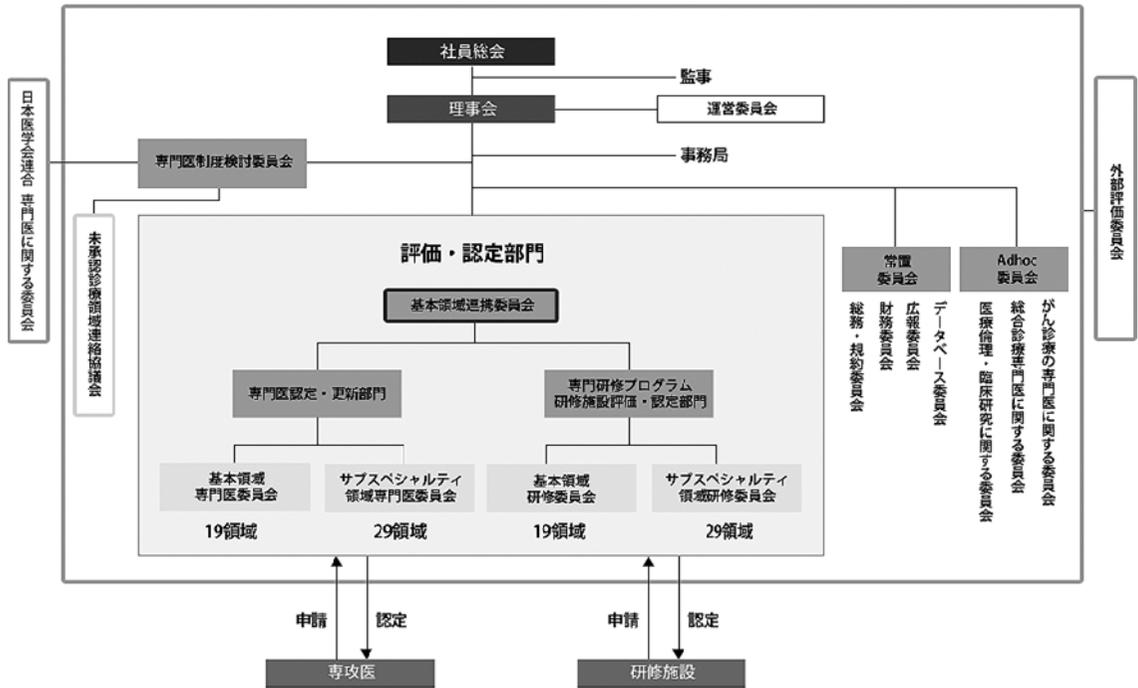
2. 一般社団法人日本専門医機構

設立後、基本18領域の代表者個人が学会の推薦を受けて新機構に入社することとなり、外科診療領域は本会の國土理事長が社員となった。そして、平成26年11月17日と12月27日に社員総会が開催され、新機構の平成26年度事業計画および収支予算が報告されると共に、社員の入会金を20万円、年会費を30万円とすることが決定した。

ただし、個人が社員を務めることは実務上の問題が多々生じたため、基本領域学会の強い要望を受け、これまでの方針を転換し、個人ではなく学会が入社し直すことが認められた(学会を社員として、平成27

年3月18日に社員総会が開催された)。

なお、新機構では定時理事会を隔月で開催する他、専門医認定・更新部門の委員会や、専門研修プログラム研修施設評価・認定部門の委員会などで、非常に精力的に活動が行われている(下図)。



4. 専門医認定委員会/予備試験委員会

委員長 古森 公浩

1. 平成26年度予備試験(筆記試験)について

第9回目の外科専門医予備試験(筆記試験)を施行した。申請者は1,192名であったが、このうち22名が期日までに所定の手続きを完了しなかったため、受験の意思がないものと見做した。したがって、1,170名を対象として、8月24日に「神戸ポートピアホテル」で予備試験(筆記試験)を実施したところ、実際は1,156名が受験した(欠席者は14名)。

9月10日に委員会を開催し、慎重かつ公正に審議を行った結果(外科専門医制度の外科専門医に関する施行規定第10条第1項により、公開しない)、949名を合格と判定した(合格率:82.1%,合格最低正答率:62.9%)。なお、正答率が20%以下(正答率:8.2%,識別指数:0.02/正答率:7.8%,識別指数:0.17/正答率:13.9%,識別指数:0.04)となった3問を不適切問題とし、この問題に不正解であれば採点対象から除外し、正解であれば除外せずに正答として判定を行った。

合格者氏名は、申請者数、受験者数、不合格者数、合格率、および今回出題した問題のうちの代表的な数問(各分野から1問ずつ)とともに雑誌第115巻第6号に公表した。

出題した問題は試験問題検討委員会が作成したものの中から本委員会が選定し、承認したものである。